

2015 年からの生活交通をつくる会 会長 佐羽 宏之 様

1. 取り組み・アイデアのテーマ・タイトル

ナローモビリティ倶楽部

2. 取り組み・アイデアの内容

グリーンスローモビリティとともに提唱されているナローモビリティ（四輪原動機付自転車）の活用に、まちを上げて取り組む活動。主要な場所（市役所や市の施設など）に、ナローモビリティの優先駐車場を設ける。また商店街などには、お買い物中に気軽に充電できる充電スポットも設置するなど、ナローモビリティ利用者に特典を設けて、これまでの自動車からの転換を図る活動である。ナローモビリティには、今後 2 人乗りやバッテリーによる電力供給機能などのあらたな機能も期待でき、市内の低速化（ゾーン 20 や 30 の適用）により交通事故の削減にも寄与できる。また、高齢者の移動の足としての活用も期待できる。

3. 取り組み・アイデアの内容のアピールポイント

100m先でも自動車で出かけ、生活交通の 8 割が自動車利用の群馬県民だが、自動車を動かすためのエネルギーのほとんどは、重い自動車自体を運ぶために使われている。必要最低限の車体を動かし、全天候に対応できるナローモビリティの普及を図ることで、市民の支払うエネルギーコストを大幅に削減し、桐生市から流出する付加価値を圧縮する。将来的には、市内に太陽光や小水力による充電設備を導入し、市民の移動はこれら地産エネルギーで賄うことも可能になる。

4. あなたにとってのゆっくりリズムとは

グリスロやスローライフが強調されている「ゆっくりリズム」だが、その目指すところは、外乱により日常生活が乱されない冗長性があるまちを日頃より作っておく活動であると思う。現代の生活は、「究極の利便性」を求めて、未だに「より速く、より多く」を求めているが、地球の容量や SDG s の観点からその限界は明らかである。限界に達した時に、再び戦争が起こらないようにするためには、その前により柔軟で冗長性のある価値観への転換を図っておく必要がある。この価値転換活動が「ゆっくりリズム」なのではないかと考えている。まさに、何にお金やエネルギー、資源を使っているか考え直す活動である。

ナローモビリティ 写真

